

# 看護学実習に携わる 病棟看護師の指導に対する思い 臨床実践能力に着目したテキストマイニング

数理システム 学生奨励賞 提出論文

昭和大学大学院保健医療学研究科

加藤 千佳



# 内容

- 1: 看護学実習の現状
- 2: 看護学実習についての研究動向①・②
- 3: 研究目的
- 4: 研究意義
- 5: 実習に関わる用語についての定義①・②
- 6: ベナー看護論とA病院ラダーレベルの比較
- 7: 方法①研究参加者 ②分析方法
- 8: 結果
- 9: 考察
- 10: 結論
- 11: 本研究の限界と課題
- 12: 参考・引用文献①・②



# 看護学実習の現状



- 看護基礎教育において臨地実習は看護実践能力の向上に重要な意義がある<sup>1)</sup>。学生の実習目標達成のために実習指導者の役割は大きく、指導者の指導観・教育観・看護観や、願いが学生の実習に大きく影響している<sup>2)</sup>。
- しかし、実際の実習現場では実習指導者だけではなく、病棟看護師が学生に指導を行う場面も多くあり、その指導内容によって実習での体験内容や目標達成状況に大きく影響すると考えられる。そのため、実習指導者ではない病棟看護師の実習に関する意欲や教育スキルの向上が必要である。

# 看護学実習についての研究動向①

水谷(2009)<sup>3)</sup>加藤(2009)<sup>4)</sup>は、医中誌のデータベースを使用し、1980年から2007年までに発表された書誌データを「看護＊実習」の条件式で検索し、その論文題目を対象としてテキストマイニングにより分析を行っている。

- ・加藤(2009)<sup>4)</sup>は、28年間の看護学実習に関する論文数は8,275件であり、経年的変化をみると2002年より看護学実習の研究論文数は増加傾向にあると報告している。

- ・水谷(2009)<sup>3)</sup>は、看護学実習における研究では、学生を対象としている研究が多く、指導者や教員を対象とした研究は十分ではないと報告している。

## 看護学実習についての研究動向②

- 看護学実習に関する研究の中で実習に携わる病棟看護師に焦点を当てた研究数について医中誌で探索した。
- キーワード「病棟看護師」1.496件、「病棟看護師＊学生」28件、「病棟看護師＊実習」24件の文献がみられ、病棟看護師に関する研究数は少ないことが明らかになった。
- その中で安谷(2005)<sup>5)</sup>は、病棟看護師の実習指導に対する意識について学生にアドバイスをすることに不安や難しさを感じていると報告していた。



## 研究目的



- 看護学実習に関する研究は多いが、病棟で学生指導を行う実習指導者、特に病棟看護師に焦点をあてた研究は十分ではない。
- そこで本研究は、臨床実践能力別に病棟看護師の学生指導に対する思いや具体的な実習指導状況について質的・量的に明らかにすることを目的とした。



## 研究意義

- 看護学実習に携わる病棟看護師の経験年数や指導経験は多様である。そのため、臨床実践能力別に「実習への思い」を分析することで、それに応じたサポート体制を病棟看護師に整備することが可能となる。
- 病棟看護師の実習指導のサポート体制を整備して充実させることで、学生の実習に対する意欲や看護実践能力の向上に寄与できる。

# 実習に関わる用語についての定義①



- 看護基礎教育

看護学教育の目的は、学問としての知識や教養だけでなく社会に看護職として安全なケアを提供できる看護技術を習得することを目的としている<sup>6)</sup>。

- 臨地実習(看護学実習)

実習を通して看護の対象や看護問題、ケア技術、看護ケアシステムなどを学生が主体的に幅広く学ぶこと<sup>7)</sup>。

- 実習指導者

実習施設の看護師で、学生が受ける看護学実習を効果的にするため、指導・評価を主体的に行う役割を担う人<sup>7)</sup>。

- 学生

看護職養成教育機関、大学・短期大学・専修学校(高等課程・専門課程)に通う者<sup>8)</sup>。



# 実習に関わる用語についての定義②

- 病棟看護師

入院患者が療養生活を送る場で働く看護師。



- 臨床実践能力(クリニカルラダー)

看護師の臨床の場で必要な臨床実践能力、管理、教育、研究の技術や能力に対して評価を行い等級を設定することである<sup>9)</sup>。(以後、レベルと記載する。)

- ベナー看護論:パトリシア・ベナー

臨床実践領域は、ベナー看護論の臨床看護実践の技能習得モデルが多く用いられている(スライド10参照)。ベナーは、臨床における卓越した看護実践について7つの領域と31の能力を導き出し、初心者から達人まで5段階(初学者、初心者、一人前、中堅、達人)の技能修得がある実践の特性を示している<sup>10)</sup>。(以後ベナーと記載する。)

ベナー 看護論	技術習得レベル	A病院	ラダーレベル
初心者 Novice	背景にある状況を理解していない。看護学生の1年生の多くは、初心者の段階からスタートする。新卒ナースは初心者であるという見方をすべきではない。	対象者なし	
新人 Advanced Beginner	受け入れ可能な実践力を持つ人。新人ナースは、ある状況の局面を認識するに十分な経験を背景に持っている。	レベル1	指導のもとに安全に看護ができる。
一人前 Competent	一人前の段階では、効率性の水準が高まる。	レベル2	自らの判断で看護が提供できる。
中堅 Proficient	中堅の実践家は背景について深く理解していることで、その状況を直感的に把握する。	レベル3	問題の解決及び問題を予防するための看護が提供できる。
達人 Expert	状況を適切に把握し、問題に正確に狙いを定める。	レベル4 役職者	適切な看護環境を設定・調整できる。困難事例の問題を解決に導くことができる。

# 方法①研究参加者

## 対象

- ①A大学病院で看護学実習を受けている2つの病棟の看護師計9名を対象とした。
- ②9名は、役職を担っていない、または、役職に対して研修中の看護師とした。
- ③ラダーレベル1(3人)、レベル2(3人)、レベル3(3人)から構成された。なお、本研究では、調査対象者の施設で用いられているスライド10のラダーレベルの内容を用いた。

## 方法②分析方法

- ①研究者が作成したインタビューガイドに基づいて、半構造化面接を行った。
- ②半構造化面接聴取内容から質問と回答の逐語録を作成した。
- ③逐語録をテキスト化し、テキストマイニングソフトウェア「Text Mining Studio Ver3.2」に入力した。
- ④回答のテキストを対象にして、全体的な特徴を明らかにするとともに、対象看護師をラダー別に分けて、語りの特徴を見出し考察を行った。

# 表1 全体の基本情報

## ①質問と回答を合わせた 基本情報

項目	値
総行数	1227
平均行長(文字数)	33.5
総文数	2576
平均文長(文字数)	16
述べ単語数	16044
単語種別数	2465

## ②回答のみの基本情報

項目	値
総行数	620
平均行長(文字数)	52.8
総文数	1909
平均文長(文字数)	17.1
述べ単語数	12860
単語種別数	2297

## 表1 テキストの基本情報

- ・表1-①質問と回答を合わせた基本情報は、総行数1227行、総文数2576文、述べ単語数16044文字、単語種別数2465単語であった。
- ・表1-②回答のみの基本情報を比較すると、総行数620行、総文数1909文、述べ単語数12860文字、単語種別数2297単語であった。

## 表1・2 テキスト基本情報の 手続き

- 1) 回答と質問内容の基本情報から、質問内容を分けて回答のみ分析を行うためフィルタリングを実施した。
- 2) 回答のみラダーレベル別にフィルタリングを行った。
- 3) 総文数は、一回の回答を一つの分析単位とした。

## 表2 ラダーレベル別の 基本情報:1

### ①レベル1の基本情報

項目	値
総行数	207
平均行長(文字数)	47.3
総文数	642
平均文長(文字数)	15.2
述べ単語数	3930
単語種別数	1024

# 表2 ラダーレベル別の基本情報:2

## ②レベル2の基本情報

項目	値
総行数	280
平均行長(文字数)	34.2
総文数	659
平均文長(文字数)	14.7
述べ単語数	3841
単語種別数	1053

## ③レベル3の基本情報

項目	値
総行数	130
平均行長(文字数)	99.2
総文数	608
平均文長(文字数)	21.2
述べ単語数	5089
単語種別数	1333



## 表2 ラダーレベル別基本情報

- 表2-①レベル1(新人)の基本情報を比較すると、総行数207行、総文数642文、述べ単語数3930文字、単語種別数1024単語であった
- 表2-②レベル2(一人前)の基本情報を比較すると、総行数280行、総文数659文、述べ単語数3841文字、単語種別数1053単語であった。
- 表2-③レベル3(中堅)の基本情報を比較すると、総行数130行、総文数608文、述べ単語数5089文字、単語種別数1333単語であった。
- レベル3が他群より文・文字数が多いけれども、語りの豊かさを示す指標タイプ・トークン比<sup>11)</sup>はレベル1では0.26、レベル2では0.27、レベル3では0.26と、語りの豊かさにほとんど違いはなかった。

表3 9名全体の単語頻度数

単語	品詞	頻度
学生	名詞	179
自分	名詞	162
思う	動詞	141
人	名詞	97
やる	動詞	96
言う	動詞	96
凄い	形容詞	75
いる	動詞	73
見る	動詞	71
良い	形容詞	69
患者さん	名詞	68
感じ	名詞	65
指導者	名詞	61
来る	動詞	52
子	名詞	50
指導	名詞	48
聞く	動詞	46
関わる	動詞	41
実習	名詞	41
いう	動詞	40

表4 単語頻度分析(形容詞)

単語	品詞	頻度
凄い	形容詞	75
良い	形容詞	69
嬉しい	形容詞	35
楽しい	形容詞	28
恐い	形容詞	25
嫌	名詞	19
難しい	形容詞	19
多い	形容詞	18
良い	形容詞	17
大変	名詞	15
無い	形容詞	14
悪い	形容詞	13
辛い	形容詞	13
大きい	形容詞	13
うまい	形容詞	10
細かい	形容詞	10

# 全体の単語頻度分析

- 表3より、対象者9名全員の単語頻度分析結果は「学生」179頻度「自分」162頻度「思う」141頻度という順に多くみられた。
- 分析結果で感情が表れやすいようにするため、フィルタ条件で品詞を形容詞・形容動詞とした。
- 表4より「凄い」75頻度「良い」69頻度「嬉しい」35頻度という順に多く単語が抽出された。
- ポジティブな単語が上位に抽出されているが、5番目以降はネガティブな単語が多く見られた。
- また、「不安」面白い」「優しい」などの感情に関する単語も多く抽出された。
- 看護師の語りの中で特徴的な単語の原文参照を行った。

# 「不安」の原文参照

- 「不安」については、レベル1（新人）とレベル2（一人前）に特徴的に見られ、実習指導に対する不安が語られていた。レベル3（中堅）では抽出されなかった。
- あるレベル1（新人）の看護師は、学生と患者さんのコミュニケーションの場面を次のように語っている。
- 「私たちが今まで聞いたことのないような話を患者さんから聞きだしていったんです。・・・仕事のこととか退院後の不安について話していた時ですよ。後で、学生に患者さんなんか言ってたとか聞いたりしました。」
- 不安は、新人と一人前に共通する感情であると特徴づけられると示唆された。

# 「優しい」の原文参照

- 「優しい」については、レベル2(一人前)のみでポジティブに語られていた。
- あるレベル2(一人前)の看護師は、学生時代の病棟看護師との思い出を語っている。
- 「病棟ナースの人と話したり、話しかけてくれたり患者さんから手紙を預かって、私に渡してくれて嬉しかった。・・・しかも、就職したらその時の病棟ナースが私のプリセプターになって。嬉しかったです。」
- このように新人から中堅になるための移行過程(一人前のレベル)で**優しさ**がキーワードとなることが伺える。
- レベル2(一人前)は、一定の自信が芽生え始めた時期であり、業務中心の看護から他者に目を向けることができる段階であると示唆された。

# 「面白い」の原文参照

- 「面白い」については、レベル2(一人前)とレベル3(中堅)で語られていたが、「面白いとは言えない」といった語りもみられた。
- あるラダー3看護師(中堅)は、学生指導に対し「学生は資格がないから、自分の責任となるから肝に命じておかないと。・・・看護学生の時に思ったこととかリンクさせながら、・・・興味深くやっけていて。なかなか面白かったですね。嫌だなとか苦痛はなかったです。」という内容が語られていた。
- 学生指導の面白さは、新人の経験値では意識できない。しかし、一人前と中堅の段階に入ると、後輩指導を通し「面白い」という考えや、表現が示されていた。上記の例は、レベル3(中堅)からレベル4(達人)への移行過程と考えられる。

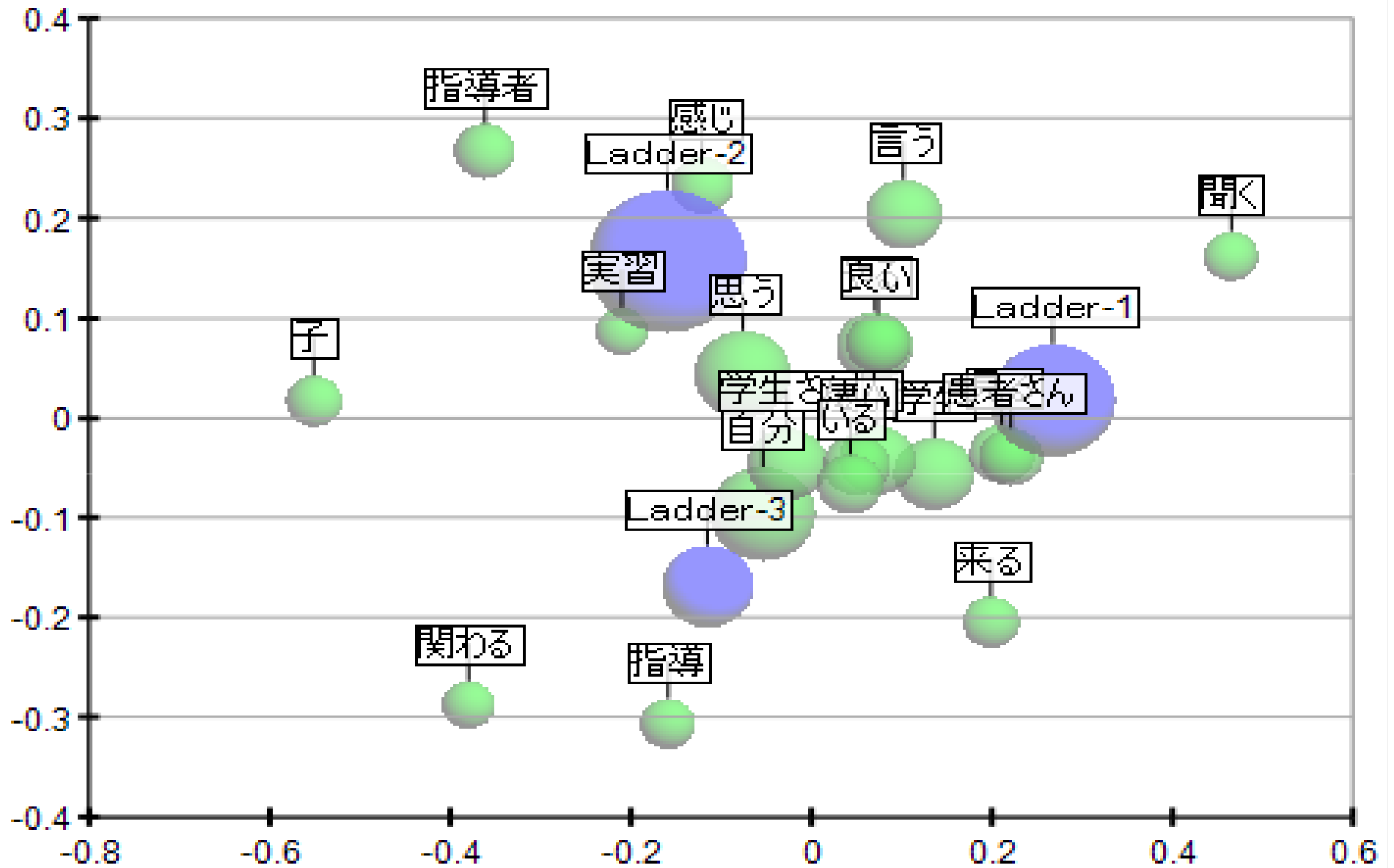


図7 ラダーレベル別対応バブル分析結果

## 図7 対応バブル分析の結果

ラダーレベルと頻出単語の関連について、

- レベル1(新人)では「患者さん」や「聞く」「来る」といった単語を多用していた。
- レベル2(一人前)では「実習」「感じ」「指導者」といった単語を多用していた。
- レベル3(中堅)では「指導」「関わる」といった単語を多用している。
- すなわち、新人は聞くことを重視するのに対して、一人前と中堅は、指導に留意していることが分かった。
- しかし、「聞く」ことは看護実践の基本である。忙しい看護実践の中での臨地実習において、「聞く」ことの重要性はどのレベルでも等しく重視されていることが示唆された。



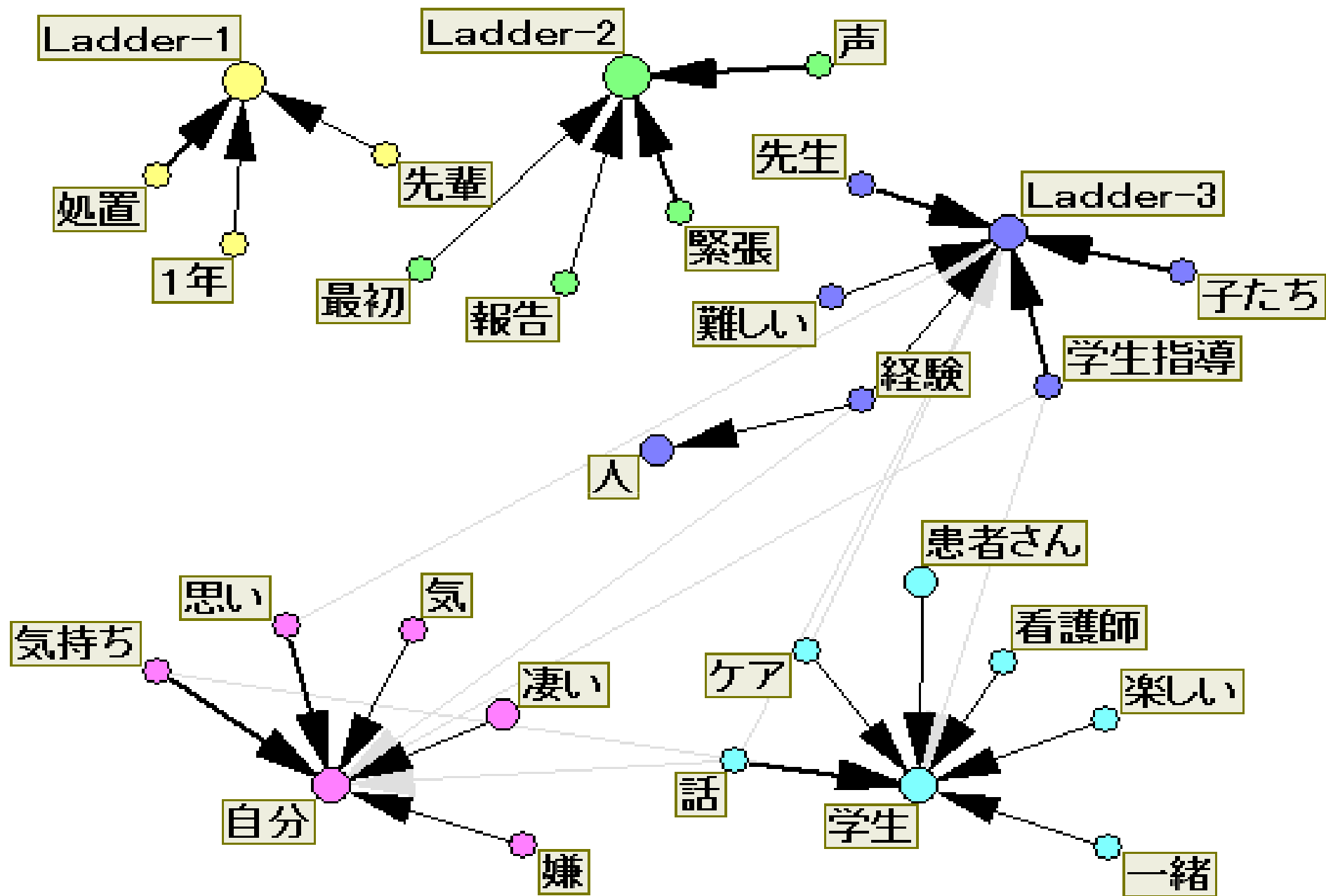


図8 ラダー別言葉ネットワーク結果

## 図8 言葉ネットワーク分析結果

- 言葉ネットワーク分析は、共起関係を抽出・オリジナル設定・行単位で共起・最低信頼度60・10回以上出現する共起ルールを抽出し、クラスタ5とした。
- ラダー1(新人)では「処置」「先輩」「1年」と共起関係がみられた。
- ラダー2(一人前)では「最初」「報告」「緊張」「声」「かける」という共起関係がみられた。
- ラダー3(中堅)では「子たち」「学生指導」「経験」「難しい」「先生」という共起関係が見られた。
- 対象者9名全員に「自分」「学生」という単語と共起関係がみられた。

## 全体の考察

- 学生が実習を行う病棟現場とは、常に患者の生死にかかわる事態が生じており、非常に緊迫した「現実社会の場」であり「生命現象の場」である<sup>12)</sup>。
- 単語頻度分析結果では、半構造化面接の内容が「実習指導に対する思い」という関係もあり、学生に対する思いや指導に対する楽しさや恐さについて語られていることが分かった。

# ラダーレベル1(新人)の考察

- レベル1(新人)では、患者や学生に対する思いを明確にしながらも実践経験不足から先輩を頼りに指導を行っていることが伺えた。
- 橋田(2004)<sup>13)</sup>は、病棟看護師は学生が患者や看護師とコミュニケーションが取れないと考えていたことを報告している。
- 本研究では、ラダーレベル1の看護師が患者の情報を知りたいという目的であるが、積極的に学生に話しかけている姿が伺えた。これは、一人の看護師の看護観が実習指導に影響していることが示唆された。

## ラダーレベル2(一人前)の考察

- ラダーレベル2では、卒業後2年以上～4年未満の者であり、プリセプターの経験を生かし学生の緊張に配慮した声かけが行われていることが示唆された。
- 武田(2008)<sup>14)</sup>は、現在の指導に対する自信は学生時代の実習体験が影響していると報告している。本結果から、学生時代に病棟指導者との関わりが嬉しくまた就職してからも安心することができたと言っている。実習指導者以外の看護師と関わることは重要であることが伺われた。

## ラダーレベル3(中堅)の考察

- ラダーレベル3では、卒業後6年以上～8年未満の者であり現場での看護師経験を生かした学生指導を行っているが難しい現状がある様子が伺えた。
- 中堅ナースは、全体の状況の把握は全体的であり、決定の仕方は合理的であると佐藤(2010)<sup>16)</sup>は述べている。本結果から、レベル3(中堅)看護師の難しい現状を乗り越えつつ面白さも感じながら余裕をもった対応をしている現状が明らかになった。

# ラダーという看護師キャリアモデル

## 看護学実習を受け入れるキャリア開発モデル

- 佐藤(2007)<sup>16)</sup>は、ナラティブアプローチを用いて、看護師の成長・発達段階について、理論的な提起を行った。
- 本研究は、テキストマイニングのアプローチにより看護師がその成長過程と関連しての看護学生に対する実習指導の思いを明らかにするものであった。
- 水谷(2009)<sup>3)</sup>・加藤(2009)<sup>4)</sup>が総説した看護学実習の研究の系譜と看護師の成長過程との関係を明らかにするにあたり、本研究は、その第一歩であった。
- 加藤(準備中)は、本研究の対象者9名に対して、テキストマイニングによる量的分析に加え、質的機能的分析を行っている。両者を統合するミックス法的アプローチによって看護学実習におけるキャリア開発モデルの基盤となる実証的研究が進行中である。

# 結論



本研究において実習指導に携わる病棟看護師の思いを明らかにした。

- ①9名全体の語りでは学生に対する思いや指導に対する楽しさ・恐さについて語られていることが分かった。
- ②レベル1(新人)では、指導に対する余裕がなく不安をもちながらも、学生に対して耳を傾ける姿勢がみられた。レベル2(一人前)では、業務中心の看護から他者へ目を向ける余裕が芽生える時期であり、「優しさ」という単語が特徴的に表れた。レベル3(中堅)では、後輩指導や業務の余裕から、「面白さ」を見出すことができる時期であることが分かった。
- ③実習指導の思いについて分析することでサポート体制を整備し充実する第一歩となり、学生の実習に対する意欲の向上と看護実践能力向上に寄与できると示唆される。



# 本研究の限界と課題

- 本研究は対象者9名の語りであり、各ラダー別に3名で分析を行ったため、テキストの基本情報(表1・2参照)から見ても各項目の情報量が小さい。
- そのため、それぞれのラダーレベルに絞った分析を十分に行うことができなかった点が本研究の限界である。
- しかし、ラダーレベルの違う病棟看護師の語りを言語化しテキストマイニングによって量的に示したことは、ラダーレベル別サポートへの第一歩となると考える。本研究をふまえたうえで、質的帰納的分析を行っていくことを課題とする。

# 参考・引用文献①

- 1) 橋田由史 吉本知枝 船越和代他 臨地実習における看護師の実習に関する意識 看護教育第35回, 2004
- 2) 島田悦子 高島尚美 看護学臨地実習における教材化の教員と臨床実習指導者との比較 日本看護学教育学会誌第17巻第3号, 2008
- 3) 水谷 郷美 「成人看護学周手術期実習に関する研究動向の分析-学生・指導者・教員を対象とした研究に焦点を当てて-」 2009年度学生研究奨励賞, 2009
- 4) 加藤 千佳 「テキストマイニングによる看護専門領域別実習に関する研究動向の分析」 2009年度学生研究奨励賞, 2009
- 5) 安谷 瑞恵 病棟看護師の実習指導に対する意識 臨床看護研究 12号, 2005
- 6) 杉森みど里, 舟島なをみ(偏) 看護教育学 医学書院, 2009
- 7) 和田攻 南裕子 小峰光弘 看護大辞典 医学書院, 2002
- 8) 平成22年度版 看護六法

## 参考・引用文献②

- 9) 日本赤十字社事業局看護部編 看護実践能力向上のためのキャリア開発  
ラダー導入の実際 日本看護協会出版会, 2008
- 10) パトリシア・ベナー著伊部俊子監訳ベナー看護論新訳版医学書院, 2005
- 11) 金明哲 テキストデータの統計化学入門 岩波書店, 2009
- 12) 山田里津 最新看護学教育ガイダンス 医歯薬出版, 2001
- 13) 橋田由史 吉本知恵 船越和代他 臨地実習における看護師の実習に関  
する意識-実習指導についての自由記述より- 看護教育 第35回 2004
- 14) 武田和道 香川智美 尾崎晴美他 学生医大の実習体験が及ぼす現在  
の実習指導への影響 香川労災病院雑誌 Vol.14 2008
- 15) 伊藤良子 山田豊子 安斎三枝子他 臨地実習指導における看護師役割  
調査について(第2報)ー若年者群と非若年者群間の「役割意識」と「実行  
度」の比較 京都市立看護短期大学紀要 第30号 2004
- 16) 佐藤紀子 看護師の臨床の知 医学書院, 2007

